

(「社会教育」の項参照)

イ 学校規模の適正化

[施策設定の理由]

(ア) 高等学校の規模別学校数についてみると、第51表のとおりである。

第51表 高等学校規模別学校数

(昭和39.5.1現在)

区 分	本 校							分 校			
	計	300人 以下	301~ 500人	501~ 700人	701~ 1,000人	1,000 以上	計	100人 以下	101~ 200人	201~ 300人	
公 立	全日制	実数 77 比率 100.0%	5 6.5%	4 5.2%	11 14.9%	21 27.9%	36 46.7%	1 100.0%	1 100.0%		
	定時制	実数 91 比率 100.0%	26 89.9%	3 9.7%	2 6.4%			25 100.0%	12 48.0%	10 40%	3 12%
計	実数 108 比率 100.0%	31 28.7%	7 6.5%	13 12.0%	21 19.5%	36 33.9%	26 100.0%	13 50.0%	10 38.5%	3 11.5%	
私 立	全日制	実数 17 比率 100.0%	3 17.6%	2 11.8%	3 17.6%	5 29.5%	4 23.5%				
	定時制	実数 1 比率 100.0%	1 100.0%								
計	実数 18 比率 100.0%	4 22.2%	2 11.1%	3 16.7%	5 27.8%	4 22.2%					

(注) 併置校も含む

(学校基本調査による)

昭和39年5月現在の公立高等学校の学校規模は、本校で生徒数300人以下の学校数は31校、本校総数108校の28.7%をしめ、301人以上500人以下が7校で6.5%をしめている。700人以下の学校数は51校で47.2%に達し、小規模学校が多くなっている。さらにこれを定時制のみについてみると規模が小さく、31校中300人以上の生徒数をもつ学校は、わずか5校であり、300人以下の学校は26校、83.9%をしめている。

分校は、大部分が定時制であり、26校中100人以下の分校が13校50%に達している。200人以下の分校は23校で88.5%である。

小規模学校は、教育効率をたかめるうえに大きな障害があり、教員構成においても学級編制、施設設備の点からも問題である。

(イ) 教育費の支出においても、小規模学校ほど生徒1人当り経費は多く支出されている。

普通学科の学校規模別に地方教育費調査の公費について、生徒1人当り経費をみると297人の生徒数をもつ学校は52,249円、1,130人の生徒数をもつ学校は、25,035円である。

これを定時制高等学校についてみると最高額は、91人の生徒数をもつ学校の生徒1人当り経費は、93,802円となっている。(経費は建築費を除いた額で所定支払金を含まない) 教育費の効率的な支出の点からも小規模学校には問題がある。